

特別講演 2

「その湿疹、ステロイド軟膏を塗るだけで大丈夫？ ～慢性皮膚疾患（乾癬など）の早期治療介入の重要性について～」

にしむら皮膚科クリニック院長

西村 陽一 先生

尋常性乾癬、アトピー性皮膚炎、円形脱毛症は、代表的な慢性皮膚疾患ではあるが、軽症の場合はステロイド外用剤で一時的に改善することが多い。しかし、いずれの疾患も慢性炎症や免疫異常が関与するため、徐々に進行して重症化し、不可逆的な後遺症につながることもある。各疾患において、重症化には一定の法則があり、その様なケースでは早期治療介入が予後を大きく左右する。尋常性乾癬では、将来の重症化を防ぐために、早期に紫外線療法や内服などの全身療法を導入する必要がある。さらに、そのような早期治療が関節炎や心血管疾患などの全身性合併症の予防に寄与し、疾患予後を向上させる可能性がある。アトピー性皮膚炎では、安易な外用治療が、将来の難治化や予後を悪化させる可能性がある。よって、初期段階での計画的な炎症コントロールが、寛解状態を導き予後を改善させる。円形脱毛症は、時に急速に進行し、毛包の不可逆的破壊に至ることがある。特に多発性円形脱毛症では、安易な治療の継続は危険であり、早期に専門医の治療が必要である。近年、生物学的製剤などの新規治療薬や、エキシマレーザーなどの新しい紫外線療法の登場で、早期治療介入による疾患予後が格段に向上してきた。そこで本講演では、これら3疾患の特徴と最新治療について解説し、皮膚科専門医による早期治療介入の重要性についてお話ししたい。